

FVI「声なき者の友」の輪
Friends with the Voiceless International



2017年 秋号

URL : <http://www.karashi.net/>

米国多発テロ事件から16年 「愛国心」を考える

激変する21世紀の幕開けを象徴するような「米国多発テロ事件」からこの9月でちょうど16年。あの日を境に米国は変わりました。多様な国々からの移民が作り上げたあの米国に「愛国」の嵐が吹き荒れたのです。テロへの憎悪は、やがて「大量破壊兵器を保有する悪の枢軸国」と名指しされたイラクとの戦争へと突入し多くの犠牲者を出したものの、後にそこに「大義」はなかったという顛末に世界は失望しました。

グローバル化が急速に進み、国同士が結びつく時代、国境を越えた人の移動や国際結婚の増加するなか、あらゆる国が「自分たちが守るべきものは何か?」「愛国心とは何か?」という問いかけの前に立たされています。

「愛国心」という言葉の意味するところは千差万別で、「愛国心を持つことは当然」という主張から、「愛国心は危険きわまりない」という主張まで多様です。歴史を振り返ると、教育や法律によって愛国心が強制された時代は、殆どの場合「国の大義のために命を捨てる」ことを国民に求めることを狙っていたようで、違和感を覚えます。

日本でも1998年に「愛国心」教育に力点を置く方針が示されて以来、翌年には「国旗及び国歌に関する法律」が制定され、安倍首相も“美しい国へ”の中で「健全な愛国心」の美德を賞賛している日本の現状があります。

国と人々を愛し国の将来を憂えるが故に、当時の政治指導部によって強制された上からの「愛国心」を批判し、民衆の側に立って自然環境を守るために足尾銅山問題に取り組んだ田中正造の生き方のうちに「いのちを大切にす愛国心」のあり方を見せられ、共感しているのは私だけでしょうか。

「声なき者の友」の輪 神田英輔

* FVIの働きは皆さまからのご支援に支えられているカタリストによって担われています。献金をもって各カタリストをご支援くださる際には、振り込み用紙に「神田指定」などとカタリスト名をご明記ください。